

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号 49 学校名 恵那高等学校

社会的役割等 (スクール・ミッション)	STEAM教育や教科等横断的な学びを推進し、文理を融合した総合知を培う高校として 全ての学校生活における探究的な学びを通して 地域や国際社会に貢献できるリーダーの育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する (1) 生きる知恵をもって社会でリーダーシップを発揮する生徒を育成する (2) 自ら問を立て「探究」する生徒を育成する。 (3) 心に故郷を抱き、世界を見据える生徒を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	『すべては「ときめきと感動」から』 ・ 生きる知恵をもって社会でリーダーシップを発揮する生徒 ・ 自ら問を立て「探究」し続ける生徒 ・ 心に故郷を抱き、世界を見据える生徒	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	『一歩踏み出す勇氣』 ・ 知的なときめきを育む質の高い授業と「探究」する学びの場の提供 ・ 自己の生き方・あり方を考えられる多様な学びの場の提供 ・ 一人一人が輝き、仲間とつくる感動の場の提供	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	『出会いを大切に』 ・ 基礎学力と基本的な生活習慣を身に付けた生徒 ・ 出会いを大切に、志をもって自分を伸ばそうとする生徒 ・ 大学進学を目指す生徒	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「恵那高探究エレメント」をより利用しやすく改善しながら、「教科力」と「探究力」を育成する授業改善</li> <li>DXハイスクール事業をいかにしながら、生成AIを含むICTの効果的な活用法や生徒への指導法の普及</li> <li>合同企業説明会を校内の恵那田舎塾や花の木セミナーなどと関連させ、外部リソースを生徒の進路探究につなげられる機会の充実</li> <li>「高1ギャップ」に対する支援に加え、恵那高生が抱えると予想される躓き感や不安感に対する全体支援</li> <li>高校生が地域の中学生や大学と協働する事業や、地域連携型探究イノベーションハブの強化</li> </ul>		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「恵那高探究エレメント」をより利用しやすく改善しながら、「教科力」と「探究力」を育成する授業改善に取り組む。</li> <li>DXハイスクール事業をいかにしながら、生成AIを含むICTの効果的な活用法や生徒への指導法の普及をはかる。</li> </ul>	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が1、2年次の探究活動の成果を志望動機書等の形で早期からまとめられるようにするため、時期や教材について見通しを持たせるためのロードマップを作成する。</li> <li>合同企業説明会を校内の恵那田舎塾や花の木セミナーなどと関連させ、外部リソースを生徒の進路探究につなげられる機会の充実を図りたい。</li> </ul>	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高1ギャップ」に対する支援に加え、恵那高生が抱えると予想される躓き感や不安感に対する全体支援を検討する。</li> <li>体育祭の屋内開催を来年度も継続する方針であるため、今年度の反省点を踏まえた準備を進めていく。</li> </ul>	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生き方我が道」においてグループによる探究活動へとシフトチェンジし、協働的な取り組みを推進していく。</li> <li>地域連携型探究イノベーションハブを強化する。高校生が地域の中学生や大学と協働する事業や場面を増やし（年3回）、地域の理科教育の裾野を拡大する。</li> </ul>	
教育職員の業務量管理・健康確保措置の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校に設置する安全衛生委員会において、教職員の健康診断やストレスチェックの実施状況等を把握した上で、教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に向けた取組を充実させる。</li> <li>管理職は、業務分担の見直しや業務の精選等の組織マネジメントの実施により教職員が働きやすい職場環境の構築を図る。</li> </ul>		

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	指導と評価の一体化を踏まえ、教員の授業改善を進めるとともに生徒の主体的な学習改善を促す。	施策Ⅱ-8	学校評価アンケート、生徒による授業評価、教員同士の相互評価				
	「恵那高探究エレメント」を活用して、教科・科目の授業において、狙いを定めた汎用的な力の育成を図る。	施策Ⅱ-8	探究エレメント生徒アンケート、生徒による授業評価、教員同士の相互評価				
	目的に応じて、授業におけるICTの積極的な活用を進める。	施策Ⅱ-8	学校評価アンケート、生徒による授業評価				
	探究学習やICTについての研修や活用事例の収集を進めながら、授業改善に継続的に取り組み、教員相互の学び合いをより活発にする。	施策Ⅳ-26	教員同士の授業参観、相互評価、活用事例の蓄積				
進路指導	新課程での共通テストについての分析を踏まえ、その対策を充実させることで生徒の満足度を高める。	施策Ⅱ-8	事後アンケート				
	保護者進路研修会を通して積極的な情報発信を行い家庭と指導の歩調を合わせた進路指導を行う。	施策Ⅰ-7	学校評価アンケート 保護者による授業評価				
	学習動画のより良い活用をめざし、進路委員を活用することで、全ての学力層での浸透をめざす。	施策Ⅱ-9	使用状況				
	総合型学校推薦型選抜準備のための自主講座を設定し2年次後半よりそのための探究の機会をつくる。	施策Ⅱ-8	事後アンケート				
生徒指導	生徒が企画・運営するLHRを、「いじめ」をテーマにして実施する。	施策Ⅰ-3	実施後の振り返り				
	「高1ギャップ」の解消を目的に全体支援として新入生を対象にESTを実施する。	施策Ⅰ-3	全体支援の効果の検証(アンケート)				
	城陵祭活動の企画・運営を、集団や社会に参画し、人間関係を自主的・実践的に形成する機会にする。	施策Ⅰ-1	城陵祭実施後のアンケート結果				
	城陵祭(体育の部)の屋内開催について、昨年度の反省点を踏まえた企画・運営を行い、持続可能性のある学校行事にしていく。	施策Ⅳ-20	実施後の振り返り				
その他	多様な人との対話を通じた探究活動の深化に向け、コラボレーションラボの機会を増やす。	施策Ⅰ-1	事後アンケート				
	社会とのつながりを意識した探究活動に向け、地域の社会人との交流機会を提供する。	施策Ⅰ-4	事後アンケート				
	探究に不可欠なメタ思考の基盤を築く。このために情報と探究を統合した科目を運用、改善する。	施策Ⅱ-9	年間指導計画の検証 指導案、教材の完成				
	問題発見能力、探究力、社会性を伸長する。このために協働的で自立した課題研究を実施する。	施策Ⅱ-8	内発的な研究テーマの数 段階的評価とピア評価				

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和9年 月 日 学校関係者評価 実施日：令和9年 月 日

--	--